

令和5年度 第2回丹波市学校給食運営協議会 会議要旨録

- 開 会 令和5年12月12日(火) 午後7時30分
- 閉 会 令和5年12月12日(火) 午後9時00分
- 会 場 氷上住民センター 実習室

- 出席者 有識者 足立 幸広 委員 (会 長)
- 小学校長代表 八尾 滋樹 委員 (副会長)
- 公募委員 石塚 和彦 委員
- P T A代表 浅葉めぐみ 委員
- P T A代表 瀬田 寿美 委員
- P T A代表 杉山 美鈴 委員
- P T A代表 加藤 教夫 委員
- 学校医代表 三浦 博幸 委員
- 中学校長代表 井本 健吾 委員
- 行政機関職員 田 村 猛 委員
- 施設長代表 高野 和典 委員
- 栄養教諭代表 藤井 晃子 委員
- 有識者 前田 孝子 委員
- 有識者 婦木 克則 委員
- 有識者 森口 茂 委員
- [事務局] 教育長 片山 則昭
- 教育部長 足立 勲
- 教育部次長兼学校教育課長 池内 晃二
- 教育総務課副課長兼学校給食係長 塩見 良一
- 教育総務課主幹 坂 東 守
- 教育総務課主幹 吉岡めぐみ

次第 1 開 会

(事務局) 定刻となりましたので、只今から、令和5年度第2回丹波市学校給食運営協議会を開催させていただきます。

本協議会は、学校給食の適正かつ円滑な運営を目的に、丹波市学校給食センター設置条例第5条の規定に基づき設置されている協議会でございます。

本日、司会進行を務めさせていただきます、教育総務課の塩見と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日ご案内させていただきましたところ、青垣地域 PTA 代表の太田さんは欠席の連絡をいただいております。

それから、柏原地域 PTA 代表の古山さんにつきましても、まだお見えになっていませんが、開催をさせていただきます。

なお、この会議につきましては、公開としておりますので、傍聴人はまだ来られていませんが、報道機関の方が来られましたら、入室を許可しております。その際、報道機関によります写真撮影が行われる場合もございますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

また、本会議の会議録を作成するにあたりまして、録音並びに写真撮影をさせていただきますので、合わせてご了承くださいますようお願いいたします。

あと、本日の資料につきましては、事前に送らせていただきましたが、郵便事情の関係で、お手元に届かないことがあるかと思われましたので、机上配付させていただきました。

資料の確認をさせていただきます。最初に次第、それから、資料 1 から資料 3 の両面印刷分が 1 枚あります。それから、県下 29 市の給食費一覧という資料を付けさせていただきます。

この資料に基づきまして、本日、ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、教育委員会片山教育長からご挨拶を申し上げます。

次第 | | |--------| | 2 あいさつ | |--------|

(教育長) 皆さんこんばんは。

今日、ラジオを聞いていると、今年の漢字は「税」になったようです。もうそんな時期かなと思いましたが、気温等を見ていましたら、そんな感じはしないのですが、1 年は早いなと感じております。

本日は、雨が降って、お天気の悪い中、またご多忙の中、学校給食運営協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃は丹波市の教育にご支援、ご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、皆さんもご存知の通り、学校給食は児童・生徒の健全な心身の成長を支えるために 必要不可欠なものでありますが、近年は物価高騰により、食材は上昇の一途をたどっています。

本日の議題にもありますように、給食費の値上げや無償化といった両

極端な判断が求められる状況でもあります。

また、一方では、全国的に学校給食への有機農産物の使用についても注目を浴びており、まさに課題が多様化しているのも現状でございます。

本日は委員の皆様により活発なご意見を頂戴したいと存じますので、よろしく願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。それでは、足立会長より、ご挨拶をお願いしたいと思います。

(会 長) みなさん、こんばんは。夜分、お疲れのところ、ご苦労様です。

1つだけ、お話しさせていただきます。先週の水曜日、私は氷上中学校勤務でした。すると、尼崎市教育委員会から電話がありました。何かと思うと、一昨年ぐらい前から、尼崎市は中学校で学校給食を始められました。小学校は自校方式なのですが、中学校は給食センターを建てて、センター方式で中学校給食を始められました。それで、その中学校の給食担当者や栄養教諭に、中学校の給食指導や食育について話をしたいということでした。なぜですかと伺うと、丹波市でいろいろな取り組みをされたり、昨年は武庫南小学校というところの研究支援に関わったりしたからということでした。丹波市では、小・中学校で全て給食をしていますし、今年は県の指定校は小川小学校です。昨年は丹波篠山市でした。その前は市島中学校、その前は丹波篠山市、その前は春日中学校でした。中学校で2校、上久下小学校も受けていました。いろいろな食育や給食の取組を発信していて、丹波市は進んでいるので、学びたいというようなことでした。

先ほど、教育長もおっしゃいましたが、給食にはいろいろな問題や課題がありまして、今回は3つあります。前回の協議会の時に、地産地消の問題提起があり、地場産野菜の使用率の問題があります。次に、パンの提供回数の変更についてです。1番目の学校給食費の改定のところは、十分ご協議いただいて、承認をいただきたいということになっておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

(事務局) ありがとうございます。続きまして、次第3の協議報告事項から、足立会長の進行でよろしく願いいたします。

次第 | | |-----------| | 3 協議・報告事項 | |-----------|

(会 長) それでは、3協議・報告事項に入ります。

(1) 令和6年度学校給食費の一部改訂についてです。事務局からの説明をお願いします。

(事務局) 教育総務課塩見でございます。

お手元の資料の1です。こちらをご覧ください。

令和6年度学校給食費の一部改定についてということで、項目を書かせていただいております。まず、学校給食費の現状についてですが、学校給食におきましては、近年、やはり物価高騰の影響を受けまして、給食費の額を超えた差額については、現在、市が負担しているという状況でございます。

学校給食法におきましては、給食で利用した食材費の相当額とするということになっておりますので、近年の増大化していくその食材費から、学校給食費の見直しが必要という課題が上がってきております。

今回、市内部で令和6年度の給食費について検討させていただきましたところ、結果としまして、児童・生徒については、据え置きとしまして、差額である、食材高騰部分につきましては、市が負担するものとしたします。

なお、教職員、実習生及び学校給食センターの職員につきましては、食材高騰分を含めた額に改めまして、ご負担をいただきたいと考えております。

また、今後の方針としましては、価格変動に注視するとともに、近隣の自治体の動向も参考にしながら、将来的に、もし、負担を求めるということになった際には、本協議会におきましてお諮りをいただくものと考えております。

先ほど申しました教職員の値上げ額につきましては、表1をご覧くださいと思います。

令和元年から令和4年については、実績の数字で表しております。令和5年の欄につきましては、10月末の数字となっております。

来年度の予算を検討する段階で、生徒数や食数の関係から、令和6年度予測ということで、給食費の算定をさせていただきました。これによりますと、給食費の平均額としまして、小学生と中学生全部を含めた全ての食数で割りまして、255.8円ということになります。それに対しまして、実際に給食を提供する上で必要となる材料費につきましては280.7円ということで、24円90銭の増となるわけでございます。25円を値上げするという案として考えております。値上げを行った後の単価につきましては、その裏面を見ていただきますと、小学生児童、中学生生徒につきましては、現行の通り据え置きです。変更はございません。小学校の教職員については、小学校の現行単価245円に25円をプラス。中学校教職員につきましても、275円の現行の単価に25円をプラス。給食センターにつきましても、275円に25円を足して300円ということです。あくまでも、

- 大人だけを対象にさせていただいております。内容については以上です。
- (会 長) ありがとうございます。
- 私からの質問です。これは国の補助もありますよね。どうなるかということも含めてですけど、今年の方については、国の補助を受けても落ち込んだということですか。
- (事務局) それにつきましては、令和4年度で給食費の無償化を12月から3月に行っております。また、一部の準要保護の世帯につきましても、支援ということで、2分の1の自己負担分を、7月から3月について全額免除しております。その財源としましては、コロナの交付金等、重点支援交付金を活用させていただいております。ここに挙げています数字につきましては、給食費として、保護者からいただく分と、交付金を充当としております。そこから入ってくるという分も同じものと考えまして、計算をさせていただいております。実質、市負担額は令和4年でしたら、1食あたり11.5円になっております。この中には、交付金も充当されておりますので、実際の市の負担というのはもう少し少ないということになります。令和5年の途中経過としまして、25.3円と差が出ておりますけど、これにつきましても、一部、6月補正の中で、材料費の補正予算をあげまして、その充当として、重点支援交付金を活用させていただいております。一部、そのような国の支援が得られているというところでございます。
- ところが、令和6年の予測につきましては、今現在の時点では、そういった交付金等については、充当できるものがないということです。全て、市の負担額になってくると思われまます。以上です。
- (会 長) 交付金あつての市負担ということですね。
- そして、令和6年度については、現時点ではないということですね。
- 他にご意見等はございませんか。藤井先生いかがですか。
- (委 員) 令和5年度献立を立てている立場からすると、全てのものが高騰していると感じています。出来る限り予算を考えて、栄養価を出すように考えているところです。本当に4月以降ほとんど、牛肉を使ってないです。また、デザート回数も減らしています。子どもたちからは、栄養面も必要ですが、このようなデザートを出して欲しい等、要望があります。昨年に比べると減っています。心身の栄養バランスを考えると心配です。
- 本当にこれ以上値上がりが続き、また、これ以上削れるところがなくなっていくのではないかと思います。これ以上値上がりすると、献立が立てられなくなるのではないかと感じています。
- (会 長) ありがとうございます。
- 他にご意見はございませんか。

- (委員) お尋ねしたいのですが、ちなみに、令和4年度は市の負担が1食あたり11.5円で、実際に市が負担された実数は分かりますか。
- (事務局) 重点支援交付金の充当率と言って、100万円の物価高騰を抑えるために、7割はその交付金を活用しています。市の純粋なお金は300万です。今回ですと、令和4年度、11円50銭としても、ざっくりですが、100万食提供していますので、1150万。そのうちの、3割程度が市の負担。厳密には、決算資料を見ないと分かりません。
- (会長) よろしいでしょうか。
- (委員) 現在、物価高騰において、何がどのくらい上がっているのか説明できますか。また、将来にわたって値段が上がっていった状態で、市がずっと負担するのか等、給食を運営していく見通しを持っておられますか。
- この2点を教えてください。
- (事務局) 食材の値上げの対象ですが、各ご家庭でも、いろいろと買い物されていたら気づかれると思うのですが、全般的に上がっているというような状況でございます。特に、加工品、乳製品も含めて、全て上がっているという状況です。さらに、この学校給食の中では、牛乳です。牛乳の単価が、昨年から5円ほど上がりまして、さらにまた来年5円ほど上がるということも聞いています。それと、知られてはないと思うのですが、小麦を使ったパンです。パンも材料費が上がっておりまして、まだはっきりとした数字は出ておりませんが、来年もいくらか値上げがあると聞いております。給食の中で非常に高いウエイトを占めます牛乳とパンです。そういったものが大幅に上がるということで、全体的な影響は非常に高いと考えております。
- (事務局) 今後の見通しは、正直言って今立っておりません。ただし、市の予算というのは、単年度で計上していきますので、令和6年度は、今日、提案しているように据え置きをすることです。教育委員会サイドとしては、今、子育て支援ということで全国的に給食費の無償化の流れがあります。また、県下でもそういった自治体も出ている中で、食材費を保護者負担でいただくというその原則は維持しつつも、なかなかその県下の他の状況も見えていかないと、丹波市だけが上げるというのも厳しいのかなと思います。今のところは、その国の流れや動き、あるいは県下の他の自治体の動きを見ながら、判断していくことになるのかなと思います。もし、そういった状況が起きれば、またこの運営協議会には諮らせていただくということになるかと思っております。
- (会長) 他にご意見はありますか。
- (委員) まず、物価高騰の種類については、もっと詳しく話を聞かせていただく

のが良いかと思えます。

なぜ、質問したかと言いますと、地元で生産している者から言いますと、そんなに上がっているかなと感じています。全体として、どの部分が上がって、どの部分が上がっていないかということがあると思えます。その辺りを知りたくて、質問したということです。

それから、後半の部分では、今のところ、市では無償化にするということはないということですね。

(会 長) ありがとうございます。

高騰している部分は、乳と小麦は分かるけれど、その他に明らかに何か分かることはありますか。

(事務局) 具体的な品目というのは今ここで示せないのですが、やはり加工品や油の関係は非常に上がっております。逆に価格があまり変わっていないのが、米です。米については昨年度と同等の推移です。

野菜につきましては、地場ではない、県外から取り入れた物は市場単価が若干上がっているようです。地場野菜については、大きな変動はないと把握しております。

(会 長) 学校給食センターはいかがですか。

(委 員) 魚は切り身で買うのですが、単価を計算していると、値上げ前と比較しますと 1.5 倍になっています。肉も上がっています。米以外は全て上がっているように思います。

今年の夏は大変暑くて、天候不順で野菜が採れなかったです。丹波市だけでなく、全国的にもそのようでした。令和4年、令和5年と高騰しています。本当、これ以上値上がりしていくと、どうしたらいいのかと思えます。

栄養価もギリギリで満たされているかなという状態です。やはり子どもたちには、栄養が摂れる給食を提供したいのですが、これ以上、値上がりしたら本当に栄養が満たされなくなると感じています。

(会 長) 今の水準を維持するには、市が 25 円負担し、今回は教職員分だけですが、25 円負担で、将来の見通しに関しては、難しいところですね。

(事務局) 将来の見通しというのは、非常に難しいですが、お手元の資料に兵庫県下の 29 市の給食費の一覧を付けております。

給食単価については、丹波市については、平均にほぼ近いような値となっておりますが、食材費を見ていただきますと、やはり、丹波市だけでなく、他の市におきましても、高騰化しているという状況が見受けられると思います。中にはもう 300 円を超えているようなところもありますので、これはもう丹波市だけに限ったことではないということが分かるかと

思います。

付け加えて言いますと、黄色で塗っているところが、いわゆる保護者負担がゼロとなっているところです。ここについては、給食費の単価をゼロとしているところもあれば、給食費は定めているけど、市が負担しますということで保護者負担をゼロにしている。あるいは、中学生だけを対象にしているなどです。1番下にある新温泉町は、重点支援交付金を活用して今年はやりましたということです。丹波市が昨年やりました12月から3月の無償化も、結局これと同じことになります。

(会 長) 他市の状況はそのようだという事です。

来年の物価レベルで、現状維持しようというのは、このようになるのです。

(事務局) 付け加えて説明をさせていただきますと、お手元に資料はないのですが、令和6年度の予測の数字を弾いた時に、条件としまして、今年のマテリアル費相当額は、進捗率がほぼ100%に近い状態で進んでおりますので、今年度の予算についても、100%執行に近いものと考えております。

それをベースに考えまして、さらに、来年は牛乳が5円ぐらい上がるというのと、材料費を抑制しなくてはならないということもありまして、後での説明にはなるのですが、パンの提供回数が結果的には、少なくなるのですが、この少なくなった分を、米に置き換えるというようなことになります。額面だけで見れば、パンよりもご飯の方が単価が安いので、全体の抑制にはなっているなということです。

例えば、それを行わなかった場合、年間で約400万円増えるだろうなという予測も立っております。

(会 長) 他にはご意見はいかがですか。

校長先生いかがですか。

(委 員) 仕方がないと思います。

(会 長) せっかくの機会ですので、PTAの方はいかがですか。

なかなか言いにくいこともありますが、他にございませんか。

(委 員) 給食費ですが、前はいつぐらいに値上げをされて、この値段になったのですか。

(会 長) 定かではないですが、10年くらい前になると思いますが、保護者負担はなしで、10円の値上げをしています。

(事務局) いつからかは分からないのですが、保護者負担はその時も変えていません。ただし、学校給食法で今は食材費を保護者負担でお願いしていますが、学校給食法では、光熱水費及び食材費ですが、必ずそうではないので、10円値上げをしようとした議論の時に、その光熱水費を保護者負

担でお世話になっていたのですが、その分を市が負担することで10円の値上げを吸収したということで、今の値段は据え置きできたということです。少なくとも、10年くらいは変わっていません。

(会 長)

いかがですか、よろしいですか。

令和6年度の教職員分については、25円値上げで、ご承認いただけますでしょうか。異議の声を聞きませんので、承認いただいたということですね。

続きまして、協議・報告事項(2)、地産地消の取組状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

教育総務課塩見です。

地産地消の取組状況につきまして、資料2をご覧ください。

表3としまして、地場野菜の使用状況を平成24年から最近まで表示をさせていただいております。

平成24年当時は全品目での使用率を出してございまして、令和元年から15品目という項目が新たに加わって数字が出ております。過去の資料を調べますと、このような推移になっておりました。気になるのは、やはり平成24年が非常に高かったということです。前回の会議の時にもご指摘いただいたように、過去は非常に高かったというご意見の通りでございました。

それから、少しずつですが、一部下がってきたり、令和元年ぐらいで一部上がったりしているわけですが、この状況の評価としまして、給食の中身が多種多様になってきて、使う材料も非常に増えてきたということから、野菜全体でのその使用率になっているように見受けられます。

それから、令和5年の数字が極端に少ないように見えておりますが、これはあくまで10月末の時点でございます。例年、秋ぐらいから冬野菜を使用することになりますので、ネギ、白菜、大根等、非常に多く使われます。最終的な数字については令和4年と同等ぐらいの推移をたどるのではないかと考えております。

それから、次の表4をご覧くださいますと、有機米の使用状況を説明させていただきます。取組の回数としては、令和4年は給食で2日間の有機米を提供させていただいております。今年度につきましては、既にこの12月4日から始まってございまして、6日間の有機米の提供ということになります。市内一斉に提供しましたのは、12月8日の有機農業の日、12月11日、最終日であります12月14日、この3日間については、市内一斉に有機米が提供される日になっております。さらに来年度につきま

しては、有機米の取組はさらに拡大して 20 日間前後ぐらいで提供を考えているところがございます。説明は以上です。

(会 長)

ありがとうございました。ご質問等ございますか。

地場産野菜の使用状況について、重量ベースで計算されているのですか。

それと、表 4 の有機米ですが、JAS 認証ですか。

(事務局)

はい。

有機米については、有機 JAS 認証を受けた有機米を使用しております。しかも、丹波市産の有機米です。

(会 長)

他にございませんか。

(委 員)

生産者の立場から言わせていただきますと、地場産野菜につきましては、10 月までです。表の通りと思います。幸い、秋冬野菜がよく出ていますので、使っていただくと、例年通りの数値になると思います。

先ほど、藤井先生から言われたとおり、夏場は厳しかったです。先日、1 月のメニューが届きましたが、白菜大根などの冬野菜がありますので、たくさん使っていただけそうです。美味しい野菜をたくさん食べていただきたいです。

有機米についてですが、令和 5 年度だと大体 100 袋ぐらいですね。来年度は 350 袋ぐらい用意することになりますが、見込はありますか。

そのことを踏まえて、聞かせていただけますか。

(委 員)

農林振興課の田村です。

先ほど、婦木委員からご指摘のありました有機米の来年度の見込みですが、市としましては、市内の有機米研究会という団体がありまして、その事務局は JA で、農林振興課だけでなく、教育委員会も一緒に協議し、可能かどうかを事前に確認させていただいています。有機米研究会や生産者の皆様のご意見をいただいて、対応が可能だということです。市としましては、2050 年に圃場の 25%を有機圃場にとということで、国の受け取る目標に沿って、オーガニックビレッジ宣言もしていますので、これから有機圃場を拡大していくという取組の中での呼びかけ、その呼びかけの中で、市民の方々に有機農業を知っていただくきっかけとしまして、子どもたちに有機米を食べていただき、ご家庭の中で会話をさせていただくということをコンセプトに、昨年度から取組をさせていただいています。

お話もありました通り、この財源、慣行農業で作られるお米と、有機農業で作られるお米では、当然、有機米にコストがかかります。差額については国の交付金をいただきまして、その差額を、農林振興課で予算要求して、財源を検討していくように進めております。

先ほど申しました通り、この交付金が未来に続くかと言われたら、現時点では令和6年度でこの制度が終わってしまいます。今後どうするのかと言われると、面積の拡大で努めていきたいと思います。そこに必要な財源は積極的に検討、周知し、提案させていただきたいと思います。

(会 長)

ありがとうございました。

令和6年度は交付金がありますが、今後続くとかは分かりません。

(事務局)

多分、1番ご心配のところは、有機米を取り入れるが、国の支援がなくなったという時にはどうするのかということだと思います。市として、オーガニックビレッジ宣言をしていますので、市の施策としてやっていかなくてはならないと思います。その差額については、給食費の算定には含んでおりません。支援がなくなったからといって、それを給食費に転換してお金をもらうのではありません。通常の慣行農業のお米の単価で算出していきたいと思います。

(会 長)

有機米のレベルを維持する、あるいは拡大するのにあたって、値上げするということにはならないということですか。

地場産の野菜の使用、地産地消の推進についてはいかがですか。

(委 員)

平成24年から平成29年ぐらいに春日と市島が統合したのではないかと思います。それが、使用状況にも影響をしたのではないかと思います。

旬のものや葉物野菜は、大きくなり過ぎたり、病気になったりして提供できないと生産者から連絡が入り、登録業者に発注することもあります。旬の物を使っても、地場産で全てを賄うのは厳しいです。

(委 員)

柏原・氷上学校給食センターの高野です。

給食で使う野菜は、年間を通して使います。やはり、地場ですと期間が限られますので、できるだけ長い間保管ができる設備があり、提供できるというような仕組みができれば、地場の使用率も上がってくると考えております。以上です。

(会 長)

メニューを工夫して、地場野菜を使うようにしていき、定期的に増やすのも難しいかなということですか。

よろしいでしょうか。

(委 員)

お話を聞かせていただく中で、給食センターや栄養教諭で工夫をするのも限界なのかなと感じます。

農林振興課の立場で申し上げるなら、旬の時期にこの野菜をとということで、献立で見られて、使用率の低い野菜を増やすというのは、難しいと思います。令和4年度25.4%の数字で30%満たない、4.6%分の部分を、何とか県産材で賄おうとしている状態です。その分も、地場産食材に転換できないかなということだと思います。そこで、農林振興課は市場と相談をしてい

ます。そちらの市場の活性化も、今、我々に与えられた責務だと認識をしております。その市場が4.6%を何とか転換できるようになればと思います。今、現行、教育委員会で取組まれている地場産野菜を優先的に提供できる生産組合が入札のあり方も行政レベルでは、一斉に変えられないかもしれませんが、なにかそこに見出させるようなことがあれば、その4.6%分を丹波市産食材に転換できないかと思います。これは農林振興サイド、教育委員会サイドということではなく、同じ共通の目的・目標を持った30%に少しでも近づけるというような取組の中で、行政レベルで話をしていくということが、重要ではないかと認識をしています。これは、教育委員会と産業経済部で、昨年度ぐらいから協議も始めております。

私は、令和3年度から農林振興課に来ているのですが、それ以前がどういふ協議をされていたか認識していません。これまで、そこになかなか話が進められなかったのですが、何とか協議がはじめられたと認識しています。

(会 長) ありがとうございます。

なかなか理想的にやっていきたいということですけど、そうはいかないということです。

県の農林部局は県産品を使用するようにと一点張りです。芦屋市は100%です。それは、市が淡路市と提携していて、淡路市産の農作物を全部、給食に取り入れています。それで、地産地消率100%達成しました。何をもって地場産というのか、地産地消の考え方も難しいです。

いろいろと難しいところはあると思うのですが、それぞれの立場で努力をして具体的に踏み込んでいくことはありがたいと思います。

PTAの方、いかがですか。

(委 員) 給食を提供してもらうかなり前から献立を作成されているので、難しいこともあり、旬の物は時期があるのですが、地場産をできる限り使っていただけると、安心して給食をいただけるのでありがたいです。

(会 長) 給食の時間に放送して、生産者を報告するなどの地道な努力をしています。これが当たり前ではありません。全国的に言いますと、兵庫県の取組は進んでいます。

他にいかがですか。

では、(3)パンの提供回数の変更について、事務局からの説明をお願いします。

(事務局) 教育総務課塩見です。

お手元の資料3をご覧くださいと思います。

パンの提供回数の変更についてということで、今年の8月のことです

が、市内のパン業者が2者ありまして、そのうちの1者が廃業されました。その影響を受けまして、今年度は、県の食育支援センターの支援で供給してもらい、提供しているのですが、来年度以降は市内の業者でパンを毎週提供するということが、不可能な状態となっております。

今年度につきましては、パンの回数が1番多いところでは青垣学校給食センターで年間42回ございます。柏原・氷上学校給食センターは40回、春日学校給食センターは41回となっております。来年度はそれらを全て、年間20回のパンの提供ということに変更をさせていただく予定です。

これについては、確かに、調達の問題というのが1番大きい原因とはなっておりますが、パンをやめてご飯に置き換えるということで給食費への跳ね返りの抑制というところにも効果が出ていると考えております。

来年度は、この予定で提供したいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

(会 長) 揚げパンはいかがですか。

(事務局) 揚げパンは非常に人気があります。

今年も中学3年生にアンケートを取りました。中学校3年生の卒業記念のリクエストメニューというのがあります。そのアンケートを取りましたら、揚げパンが非常に人気です。次に、揚げパンと変わりパンです。

今回はこの数を変更するのではなく、スタンダードなコッペパンの部分で変更しますので、揚げパン、変わりパン、米粉パンも含めてですが、そちらの提供回数はこれまでと変更はございませんので、ご安心ください。よろしく申し上げます。

(会 長) 揚げパン、変わりパンは現状維持ということですね。

(事務局) 年間を通して、ほとんどが変わりパンが出ると考えてもいいくらいです。子どもたちにとっては、楽しみになるのではないかと思います。

(会 長) 報告事項なので、これで進めるということとなります。

他に意見はございませんか。

(委 員) この間も、黒井小学校の校長先生たちと給食についての話し合いがあったのですが、児童の多数が給食は美味しいと言っています。僕らの時代では考えられなかったような発言です。発言を聞いた時に、本当かなと思いました。

地産地消、有機米、パンの提供等いろいろとありますが、引き続き美味しい給食を出していただきたいです。

まだ、黙食が続いている状況なのですが、食べながら会話があつて、子どもたちが本当に笑顔になるかなと思います。我が家では、ご飯の時は

テレビを消して、楽しく食事をするようにしています。

学校でも、せっかく美味しいもの食べているので、そうしていただきたいです。そのおいしい中で、地産地消などをプラスアルファで考えたらいいかなと個人的には思います。

仕入れのお金を落として、美味しいものを出して欲しい、値段をあげたらいけない、何とか切り詰めてやってもらうよりも、美味しいもの作るために取組んでいただきたいです。

当然、飲食店では 300 円で食べようと思ったら 960 円ぐらいします。これには人件費も含まれています。人件費を抜いた 300 円での提供は高いとは思いません。

今後も美味しい給食を作って欲しいです。本当にありがとうございます。

(会 長) ありがとうございます。

ランチルームなどでは、コロナ前に戻りつつありますが、インフルエンザが流行ると黙食にせざるを得ないという状況です。

それでは、ご発言いただいている方もいらっしゃると思いますが、よろしいですか。

それでは、(4) その他に移ります。事務局からお願いします。

次第

4 その他

(事務局) 教育総務課塩見です。

次回の運営協議会の日程ですが、前回の会議時に 2 月 15 日開催すると決定されていたと思うのですが、急遽、本日 2 回目を開催させていただきました。

第 1 回の時に、地産地消の取組の報告ということもお聞きしておりました、本日、その内容についても触れさせていただきました。2 月に元々予定していた内容というのが、本日の内容で開催できたのではないかと考えております。今年度の会議につきましては、本日をもって終了と考えております。

来年度、引き続き皆様にはお世話になります。例年でしたら、6 月ぐらいに第 1 回目を開催するということになります。また、ご案内をさせていただくということではいかがですか。ご意見をお聞かせいただきたいと思います。以上です。

(会 長) 2 月 15 日に予定していた第 2 回運営協議会ですが、本日の開催となりました。そこで、2 月を行わないという提案なのですが、よろしいですか。

今年度の地場野菜の数値については、6月頃に予定されている来年度の運営協議会の資料として挙げていただき、継続して共有していくこととなります。

今年度の運営協議会は本日をもって終了いたします。

次第

5 閉 会

(事務局) 足立会長、議事進行いただきましてありがとうございました。
それでは、5番目の閉会にあたりまして、八尾副会長からご挨拶をいただきます。お願いします。

(副会長) 失礼します。副会長の八尾です。
本日はご多忙の中、また、お足元の悪い中、学校給食運営協議会にご参加いただきまして、ありがとうございました。

学校給食の運営について、行政機関と生産者での取組、安全・安心な給食提供をどうするのか、そのためにはどうしていくのか、コストもかかりますし、近隣とのバランスを考慮しながら運営していくための協議をすることができました。

今後の見通しはというご意見もありましたが、国の情勢もどうなるかというのが分からない中で、市としては、バランスを取りながら学校給食を進めていかななくてはならないということです。

そのような中で、子どもたちのためには、丹波市らしい食育をこれからも広めていくことが大事ではないかと思っています。

これをもちまして、本日の第2回学校給食運営協議会を終了とします。ありがとうございました。